

あわいの時

加藤文子

数日で新年を迎える。

毎年つくる松飾りは、門柱に設しえた。お正月休みを利用してたずねてくれる姪を迎える準備も整った。神棚のしめなわ、お札も新しくして、ひと通り年末おこなう用事は済ませた。

あとは各部屋のカレンダーの入れ換えをするばかり。

洗面所に掛けていた十二カ月分が一枚に印刷されたR・GREYのポスター大のカレンダーも、最終になった。R・GREYはNさんが三十八年間営んでいらした宮古市にある洋服店。

一月から日を追って小さな字で書き込みをしている。外出や来客などの予定を用事別に色分けをして丸く囲んだり、終わった日は横線を入れてみたり、刻まれた一年が見渡せる。

一月から十二月までの十二段が横に並んだ数字をみると、一年で何て短いのだろう、あっさりしたものなんだ、そんなふうに思えてくる。



月ごとに捲るカレンダーとは趣がちがう。

近年洗面所にはR・GREYのカレンダーが定着していたのだが、閉店されることになり今年が最後になった。

毎年Nさんのセレクトした写真や絵でカレンダーが制作されてきた。「日々の中にある小さな幸せを甘受して……。」など、英語で添えられた短いメッセージも効いている。Nさんが選びぬいたお洋服同様、どれもおしゃれでカッコ良くて、印象的だった。まさにアートだ。

毎日自分を確認するような気持ちでながめていたカレンダーの景色がなくなるのは、名残惜しい。次からはどんなカレンダーを掛けよう。

通り奥まった所にある水道設備屋さんも仕事を納めたようで、行き交う工事の車もなく、静かだ。犬の散歩の人が時々通るくらいで、ひっそりしている。

やり残していることはないかしらと思いつつ、微かに白い空気の立ちのぼる温室でゆっくり水やりしている。長年一緒に暮らしてきた植物たちが、今さらに頼もしく思えたり……。

ジョウロで瓶の水を汲む音、どこか遠くで機械を回す音、冬の風が作る木立の音、そんな音の中で過ごす一年の終わりの数日が好きだ。



生命の集合 カタヒバ リンドウ 源平小菊 スミレ 紫エノコロ  
盆養年数 30年 / 鉢の径 9cm